13
2378
348

市川三弁作
歌川國貞画　全六冊

兒ケ淵紫両人若衆

乙酉春
新彫販　和泉屋市兵衛

遠13特
2378
348

市川三升作
歌川國貞画　全六冊

兒ケ渕後編

文政八年
乙酉春販

耳泉堂上梓

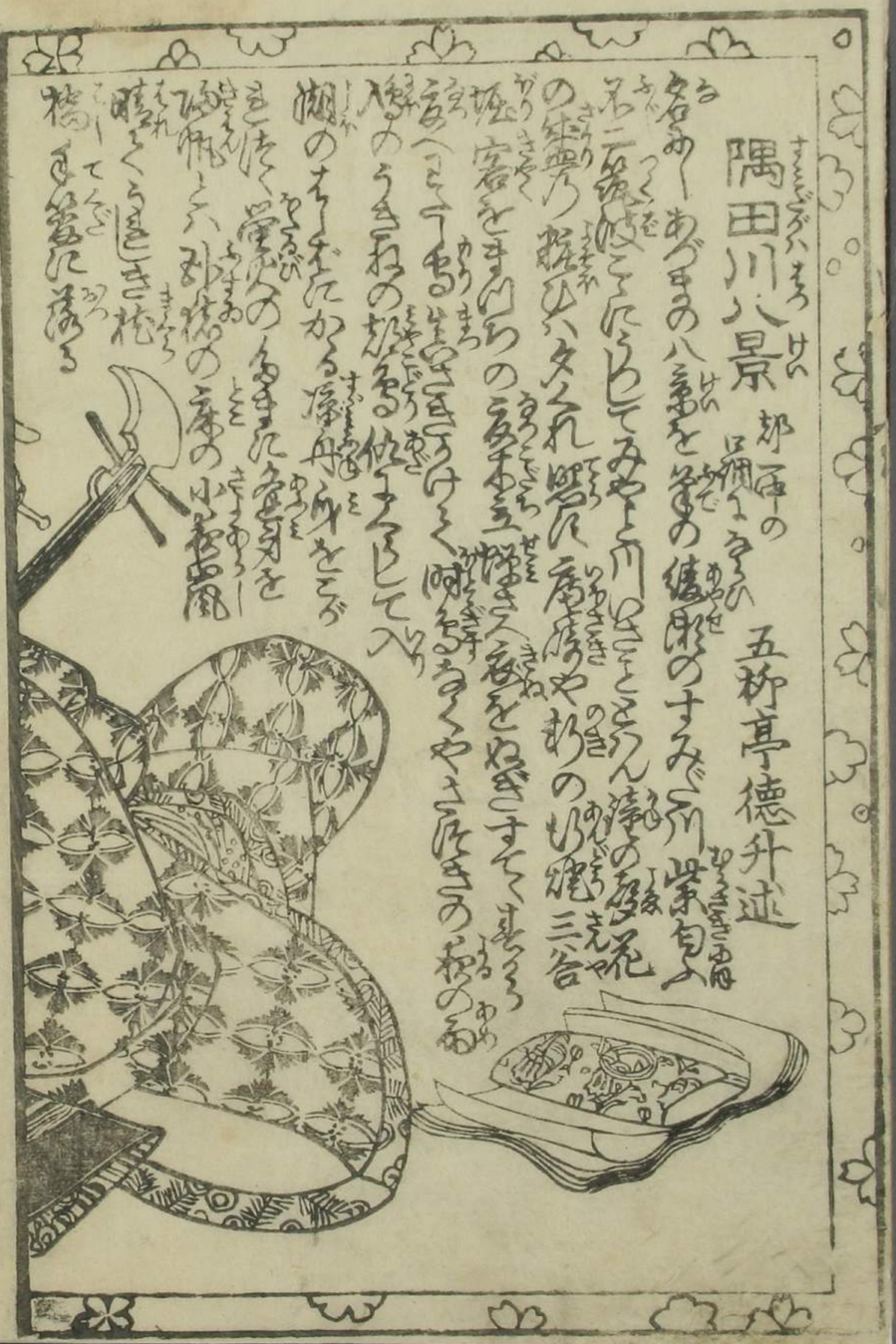
渡唐の天神ハ関羽と同道ハ梅花を持のひ劇場の芦の看板ハ五節句をもきひけん。孔子ハ陽虎に似てさられ。雁ふんでくろ男ハ六祖と師とあやまつ。見さ面ハ紙但れ。ごとき。番車ハ飛車ゝ働のる。男子も抱ぎ。父子似て其性ちがゝ。父白猿が達磨の樓へ送り筆ときみ。蓋正徳の頃。寶井雪子の吟よ。今あに閑平郎や鬼ハ外の秀句ハ先祖の徳。我乃ぶ。ところ。筆を樣て。乃祖を交ゆるも。ここハ〇ぬ柳延。調の。ゝ。ゝ。行の。冊子の。像の。繪をゆく。ゝ。ゝ。私でハ。ゝ。ゝ。ゝ。祖。鬼。ゝ。

文政八酉の　本場の産よ　七代目　市川三升述

隅田川八景　都鄙の通人　五柳亭徳升述

名所〜あづまの八景を筆の徳用のすみぞ川　紫旬人

[illegible]



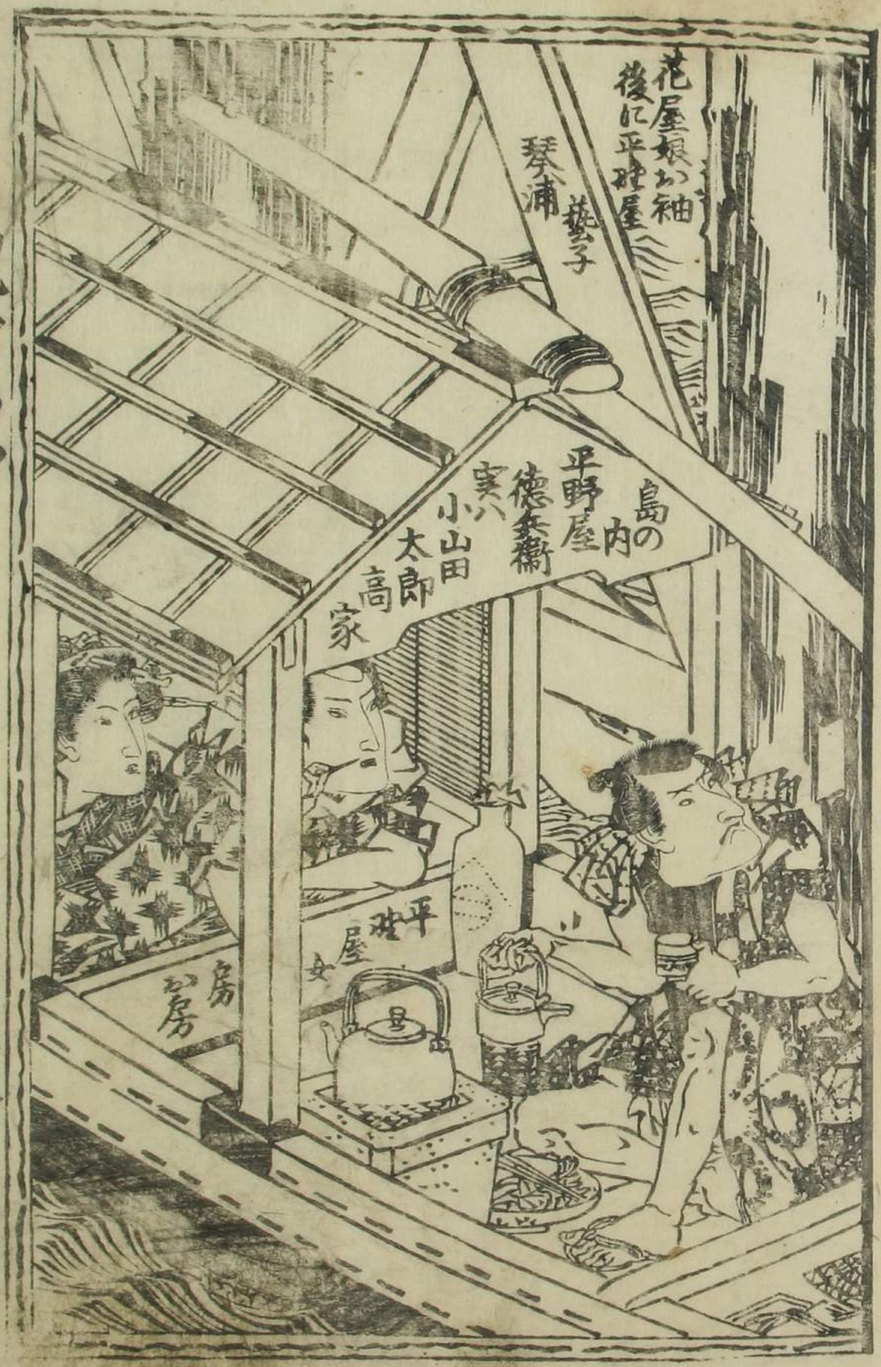
春

[illegible]

夏

[illegible]

木辭寺の小性白菊
実ハ脇屋二郎
子
白菊丸
中間
後ハ
權八
三河屋
義兵


花屋娘お袖
後に平野屋
琴浦
藝子
島の内
平野屋
徳兵衛
実ハ
小山田
太郎
高家
平野屋女
房
房

盗賊
立烏帽子
後ふ魚屋
團七
九郎兵衛
実ハ長崎
勘解由左衛門
秀連

伊豆の清光院の小性
白菊実ハ
相撲次郎
時行

山形屋
後家
秋

秋のこまぬぬ
ハ
ゆにちらそ
これを
まつむ
ねも
わをくきぬ
山手ぶさを
つきをきくこそ
どりいと
らーのぶや
なのうる

冬

四さのある
あのすゝぐ川
毎のさゝをこらつ
ゑんふをとりぶきと
ゑんぶハ
ゑんぶハ

漁師
小神の
三郎

後ハ
浪花の男
達

釣舟の三郎

立

白

つぎは一枚ハ二人さむらひ山ヒロヘれをつげて
ちゑのんとしてうしろ海ゆくまめをあそびていろう
ちゑのんのさうぐうをかるをさろはもてゆめのそう
ちーきとうべーちろるにゆうにけんちゑのんのそう
あうふまてうろうぐちきうちはゐえめべー
とかておぐろきこれ師のだうのめのにたち
ちゑのんのりひくとこーるえねば
わくい者きそうのをーをきのらん
けちゑんをちりぞけのとこのふ
海さくらうめびをそうちろのの
ーやうハ本にて今年ハ大うり
とれさうーやうゆそきろう
ちるに今西へゆくく大自星
まそこに大金をりつきく
金ハ本とるあいにて
ちゑぞくのこあにぶのきちゑん
いのきにけも金をさるべー
さすればぶちゑんろうとのふ
きれどもちゑのこのがりうり
ちも黄金をくてハ師のぞうの
月白ときびいにけせんとのびめくて
ちのときうやうにーゆく①下へ

①上より
ちろきゆめびとうくねぐひ毒殺
そうせにすべーとそきろくきやくねぐの
金二百めをあゆてうけるべきこと
ちろけをうろう
これよりゆちろ
つきてあくちゑん
をきやーうちち
ちけるがれ
これ二日めりり
ゆそ年ろくく
ぐうすぐくゆで
ちるちちろみく
ききにろぐれホ
ゆし男にめん
ぐとの色ちの
男もきちーの
たちうりて
又ちにゆで
めちとうきれ
えんろう
とそ

のきき
ろぐまとちりてゆく
やどにわちのそにきちちと
ときちの男いのにハきゑ傍に
けやどあーー時ハ大金を
きやちせれーが今
天のんを金をつき
ぶる大自星のひりを
ちるのいのにきちれ
やとちゑ西ゐれ
ぐちそちのエそを
ゆりのきに
ちりけるふ
ちの男ゐを
ちちきても
きびーき
けんきぐるる
ゆちそちつ
ちん
れハ
ちそ
ちの
れま
ちゑ大金をあちぐーのちゆき
すぐつきちやちひちちてーて

うぐひちりとおりひーと
ちのにこれも
おぐちきちろ海
ゆちゑ高のエそ
をんちつゆく
わどにれまき
ちきちぐちう
ちぐけんとの
うちきちちちるく
いやくちーにけ
とちこいするに
いちきのきち
そのりとちゑ
ちちちちこにぶ
ちりのちちく
ーちにちき
きびーきま
ちぐ
ちのと
ちちくえ

つゞく

つゞき

つづき

ぜんまろ
ゑんじゃけれハ
これまろぞくの
ぎょうのまろと
いっをゑぜん
ゐっをあいっに
ゑっぐさっやの
ぞっぞくハ
ゐれにゑぐ
ゐっゑゅーと
ありエぞを
ゑぶ西ゑれハ
まこのたーぞぶ
さろまるまろこやや
ゐっにをっぐぞっぐに
まぎれてゐ子匡
ものあゐんもまろう
ぐってときのそまるく
ゐっけもとそせんさく

ゑ〜にゐりぐ
いっものぜよわく
ゐってゆくまるび
さそこを見ごろ
ゐるものゐりじぶきろ
れがまりぎゐろんと
ゆくをぞーぐひける
それハさそゐき
ぜんまるんーぐの
ぞんに
まろ
ゐをゐそ
ぜぐ
☒

☒ぜんまーとゐる大ぶげんゐり
ゐっぐハ三ーオぐこのゐそ
ろっるのゐさあこと〜 ぜんまに
ゐりけるぐをっこにゐ

「あらうらめや
「あむーさうまさう
えんーさうぐるい

三
油

袖
袖

袖

○かくて枝八八おさまをこそろ
えこのぞいづのくにめちぎぞく
さーろるころさきえ ゆりてひろ
ろうのぬすびとさんこうにて
あめともいうぞきりつけこう
めつさくのきれものにてろて
かにきりつけくれるひろ八ゆて
こまるぐきこをれるぐろもとま
こそて引にゆこうをぞう
うし引、これこそご自ぎて
ふこうのまれこつけつまりつまろう
えんのめのどのをこぞろてろ引
のこんざんにゆやうのやりイそろる
いぬはろでてーやいく人うごろまで
の山のざろくをりでまつてろる
それ恒こにあの世くびこ
うらこぶあるろ引白ぎてに
り引引うちゆいるのれら
ふこうりうらこをうきので
ろろろうトまろがひく
ひこやぶろつくをきうのぞ
けのけあらこをよ
えんこうに
あり見めきの

▲ひろんできゆるきゆらんアラうら
ややくト一れんのりんくとめこえ
あぐりのづくこもるくこびさろれ
弘ぜんきろのろのをを見ろぞうの
めぬきをこうのちとあるきて
こきろりりりきて又
かそびハそこまくと
さるーひろろこの
さくんくるけこび
のどめくすることも
ろりりしば

萩

ふぞうぬけて川こそ
ちろろりゆるぞんハハおぞろき
うぞうあきろがかこをくるぞまき
ろこうをうぞひてきろまくあくぞんぶとうちここ
めこきろうこことちちせけりこそもけゆるぎりと
きこうこくそこぶちてこそねこうちるみせのつよして
きもすきまくきハ谷川ろう
かそでハーやんれあにかを
ゆこ白ぎてくびあこそをこひこくきろる
山のよううあけにそここるこんこうの
ちちきこるとひちひをうあひろの
ちろにうしてこきこれバひろあのきて
ゆハこぞんこ和尚法こくあんぎや
のこひすぞこは時山上ろうこん
ぞきのひろくこるひこにこあ
ぐるこくこうぞこうのこんこの
川にこそこちにきぶれーこの
ちぶのハテいぶくーとんるうちに
うのこぶのハちつくこちこのわれん
ひろるかーやくにあこともこうちこ
こちこきこうろうイヤくひどうに死
する。ごこのひんこんがんのろうの人ををこそ
ーぞうぶぞきこるりあこぶぶくーじゆぶもーうこて
ぶこうする。イヤーぞこぶろせぬいろあぐいのこそて山ろうこ

▲ろきの
ある人の
せちにて
いづのあここの
ゆやこうろ
ちぶこうくこに
あーをとぶのろう
ゆあこここいこうこてあのこうにて
そのろこちるみぐをアこちこてぜろ
けゆこぶひるろうこれバ

白

つぎこそ

つぎ

つぎ
次へ
白

市川三升作

歌川國貞画

又六
伴

さら
ぜろ
又

又

白

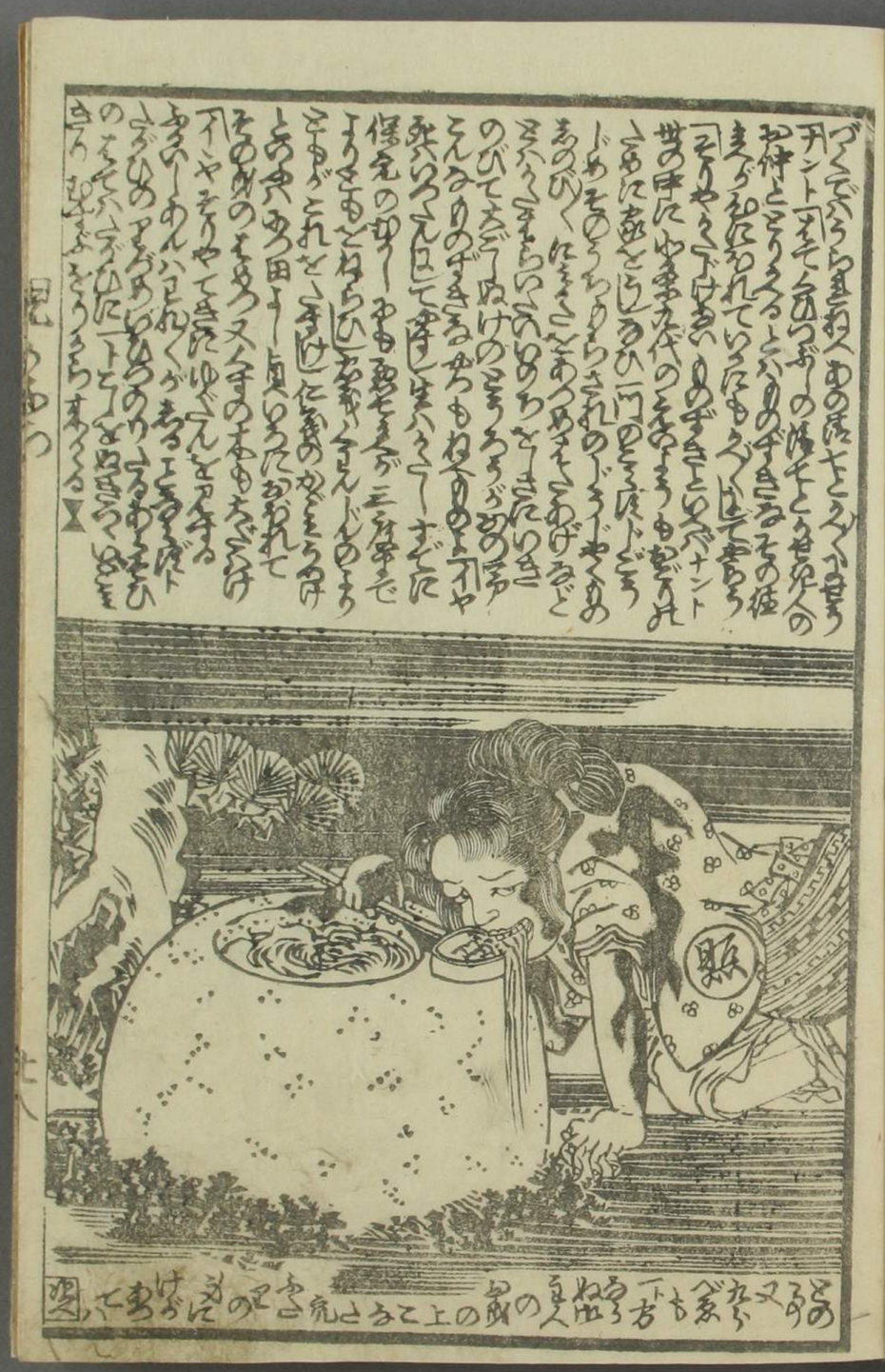
奉納
奉納
清

仲
琴

仲
清

助
吉
波

松
竹
梅



清
仲
油

歌川國貞画　市川三升作